

夢洲・咲洲

夢洲において、国内外から人・モノ・投資を呼び込む大阪経済成長の起爆剤となる「新たな国際観光拠点」の形成に向けて、「2025年大阪・関西万博」の開催、統合型リゾート（ＩＲ）の誘致の取組みを進めています。また、咲洲などの臨海部の各機能や施設との連携により、臨海部全体の活性化をめざします。



夢洲まちづくり ～新たな国際観光拠点の形成～

■コンセプト

SMART RESORT CITY

夢と創造に出会える未来都市

「リゾート」と「シティ」の要素を融合させた空間を形成し、「スマート」な取り組みによって、まち全体の連携を高度化し、国際観光拠点機能の強化を図ります。

■まちづくり方針

【第1期】統合型リゾート（IR）を中心としたまちづくり

魅力的なエンターテインメントの集積、国際競争力を有するMICE施設の整備やICT等最先端技術を 活用したスマートなまちづくりによる国際観光拠点を形成する。

【第2期】万博の理念を継承したまちづくり

大規模なエンターテインメント・レクリエーション機能や万博の理念、最先端の取り組み及び第1期において創出されたにぎわいを継承したまちづくりを進めることで、第1期のまちづくりと合わせて国際観光拠点機能の更なる強化を図る。

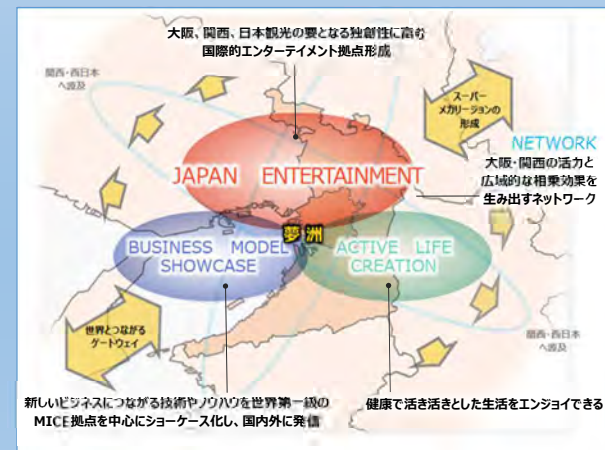
【第3期】第1・2期の取り組みを活かした長期滞在型のまちづくり

第1・2期で創出・醸成されたエンターテインメントや最先端技術等により、健康や長寿につながる長期滞在型の上質なりゾート空間を形成する。

■2025年大阪・関西万博開催

- ・「いのち輝く未来社会のデザイン」をメインテーマに、2025年4月13日～10月13日（184日間）、想定来場者約2,800万人の開催を予定。

- ・博覧会の開催が大阪・地域経済の更なる発展に繋がるとともに、博覧会開催後、万博の理念を継承したまちづくりを進めていく。



2025年大阪・関西万博 会場イメージ(鳥瞰図)



提供：2025年日本国際博覧会協会

御堂筋周辺地域

御堂筋は、大阪市内の二大ターミナル梅田と難波をつなぐ全長約4 km、幅員約44 mのメインストリートです。特に淀屋橋から本町間は、日本全国から人、モノが集まる商都大阪として17世紀より栄えた船場エリアにあり、証券、金融、製薬、繊維のリーディングカンパニー等を数多く輩出してきたビジネス地区です。近年は、都心回帰の潮流にのり、周辺に都心型レジデンスや生活関連施設が増える等、平日、休日を問わずにぎわう複合機能都市へと進化しています。

多様な機能をあわせ持つ「ビジネス」地区

高さ制限の規制緩和等により業務機能の高度化を図るとともに、防災機能、環境性能の向上を図るなど、国際レベルのビジネス地区の形成を進めています。



世界を魅了する個性豊かな「にぎわい」

低層部に店舗・文化施設の導入を誘導するなど、世界的なブランドストリートとしてにぎわいのあるまちなみを形成しています。公民連携して継続的にエリアマネジメントに取り組んでおり、今後もエリア価値向上が期待されます。



高質な都市景観からなるシンボルストリート

都市軸を形成する御堂筋は、調和のとれた沿道ビルの景観とともに都市の品格を感じさせる風格ある空間を形成しています。



世界最新モデルとなる、人中心のストリート

車中心から、世界に誇れる
人中心のストリートへ空間再
編をめざしており、短中期目
標として、2025年の万博に
向け、側道歩行者空間化を
進めています。



難波・湊町地域

難波地域は、関西国際空港と鉄道で直結する大阪第2のターミナルであり、西に位置する湊町地域においては、鉄道及び高速道路と直結したバスターミナルなどの公共交通ターミナル機能を有しています。また、難波を中心に広がる繁華街「ミナミ」は、350年以上の歴史を有する文化、娯楽の中心地として、人気を博しています。近年は、ビジネス機能や広域集客機能の強化を図るほか、宿泊施設の建設が進んでおり、なんば駅周辺では、車中心の空間から人中心の空間へと再編し、世界を惹きつける観光拠点として上質で居心地の良い空間を創出する事業を進めています。



